COLUMN:Health

健康コラム

子どもの言葉の育て方

子どもの言葉を育むためには、さまざまな経験や、大人たちとの関わりの積み重ねが大切です。

≪生活の中で言葉を育むポイント≫

●子どもが出す声に耳を傾ける

子どもが何か声を発したときには、子どもの目を見て「あーあーなの」「そうなの」と答えてあげましょう。子どもが注目したものに親が目を向け、子どもに声を掛けてあげることも大切です。例えば子どもがチョウに注目したときには「ちょうちょだね」と声を掛けてあげましょう。子どもは、親が自分に関心を持っていることが分かると、「言葉を伝えたい」という気持ちが強くなっていきます。

●子どもの気持ちを代わりに表現する

例えば、子どもがおやつを食べてニコニコしていたら「おいしいね」と声を掛け、頭をゴツンとぶつけたら「痛いね」と代弁してあげましょう。

こうした経験が「自分の気持ちを分かってくれた」という安心感につながります。

●子どもの言葉をまねる

少し言葉が出てきた子どもには、子どもが言った言葉を繰り返してあげましょう。二・三語文を話すようになり、例えば「でんしゃ、いっぱい」と言ったら、「そうだね。電車がいっぱいだね。どこに行くのかな」というように、話題を少し膨らませて返してあげましょう。子どもの言葉がさらに広がります。

日常生活の中で会話を豊かにすることが子どもの言葉の育みにつながります。親子の時間を楽しみながらコミュニケーションを深めていきたいですね。

【問い合わせ】健康づくり課（☎23-3121）

市民生活コーナー

賃貸住宅の入居申し込み・退去時のトラブルに注意！

■どんな相談があるの？

○賃貸住宅の入居申し込みをキャンセルしたところ、支払った申込金を返してもらえなかった。契約を交わしていないのに納得いかない

○賃貸住宅の退去時、清掃代を含む高額な原状回復費用を請求された。敷金も畳替えなどの修繕に充てられ返金されない。退去前にきれいに清掃し、目立った傷もないのにおかしい

■注意することは？

○入居申込時に申込金を求められた際は▼申し込みをキャンセルした場合に返金されるか▼契約した場合に敷金などの契約金に充てられるかーを確認することが大切です。記録を残すため、申込金はなるべく口座振込で支払い、預かり証は必ず受け取りましょう

○国土交通省の「原状回復をめぐるトラブルとガイドライン」では、通常損耗や経年劣化による修繕は貸主負担とされています。また民法改正により、家賃の滞納や借主の落ち度による破損などがない場合、敷金は返金されることが明確化されました。敷金が返金されず、明細に納得できない場合は説明を求めましょう

■困ったときは？

○新館市民生活総合相談センター（☎41-3550）へ

いいトコ発見！ 地域おこし協力隊

花巻の工芸品で和傘のランプシェードを制作

-伝統工芸担当　今野　陽介-

東和町北成島の成島和紙工芸館、鍛治町のせがわ京染店、高松の滝田工芸。花巻の和紙・染め・和傘の三つの工芸がコラボレーションした「和傘のランプシェード」の試作品が完成しました。

花巻の多種多様な工芸を組み合わせることで、花巻ならではの美しいものが出来上がるのではないかと思い、提案させていただいたのがこの取り組みのきっかけです。

成島和紙工芸館の成島和紙は、コウゾという植物が原料で、さらにノリウツギという低木を利用することで、より丈夫な和紙ができます。はけを使って和紙を染めていくため、弱い紙だと破けてしまうことがありますが、成島和紙はとても丈夫で簡単には破けません。

◀和傘のランプシェード

せがわ京染店の染めは、宮沢賢治の世界を表現しており、「銀河鉄道の夜」や「よだかの星」をモチーフにした作品も制作。このランプシェードも宇宙のような不思議な模様が、光によってより美しく表れています。

和傘として最終的に形にしてくださる滝田工芸の技術があって和傘のランプシェードは完成となります。このランプシェードは、滝田工芸の先代の信吉さんが考案した電気スタンドを基に制作。この電気スタンドがなかったら、今回の取り組みには至らなかったと思います。

それぞれの特徴を生かした和傘のランプシェード。今後改良を重ねて商品化を目指します！

Famers of Hanamaki.

花巻ファーマー

安心な地元食材を使った　こだわりの「うぶすな手作り味噌（みそ）」

菅野　徳主さん（65歳）
和さん（65歳）
（東和町鷹巣堂）

●たかすどう産土農産加工
【場所】東和町鷹巣堂２区57-2
【問い合わせ】☎44-2571 FAX44-2591

田畑の雪も解け始め、少しずつ春の足音が感じられる東和町鷹巣堂に、菅野夫婦が取り組むみそ作りの加工場があります。

水稲48アール、ダイズ12アールを栽培している菅野夫婦。その傍ら地域の人たちと「たかすどう産土農産加工」を平成16年10月に設立し、ダイズやヒエなどの地域食材を使ったみそを生産しています。

「みそ作りに必要なこうじも手作りしています。温度管理がとても重要で、少し気を抜くと発酵熱で温度が高くなり、良質なこうじができません。作り始めの頃は、夜中や朝早い時間に加工場へ足を運んだこともあります」と代表を務める夫の徳主さんは、当時を振り返ります。

加工場で生産されるのは、汁物などに使用する４種類の「うぶすな手作り味噌」のほか、フキノトウやウメなどを使った「四季のなめ味噌」８種類、野菜や果物を使ったドレッシングなどさまざま。地元の産直などに出荷しています。

「定期購入してくれる関東方面の人もいるんですよ」と教えてくれたのは妻の和さん。東和産原料を中心に作られたみそは香りが良く、安心して食べられると評判です。

菅野夫婦は「生産加工を通じて、会員同士の存在を支え合いながら、地域の食文化を次世代に伝えていければ」と期待を込めていました。

地域食材を使った４種類の「うぶすな手作り味噌」。団体に直接注文も可能です

広げよう活動の輪

市民活動団体紹介

山の生態系や農作物を守る 花巻市猟友会

「花巻市猟友会」は、早池峰山の希少な高山植物や、農作物を鳥獣被害から守るため、平成21年に結成された市民団体です。

同団体は、増え過ぎた有害鳥獣の捕獲や、鳥獣の保護、安全狩猟のための射撃大会開催など、幅広く活動を展開。クマが出没した際には、周辺をパトロールし、注意喚起を行うなど、地域の安全も守っています。

さらに同団体では、全国初の狩猟者育成学校を開設・運営するなど、狩猟の担い手の育成にも力を注いでいます。

「狩猟や有害鳥獣捕獲、罠の設置方法はもちろん、鳥獣の種の保存と人間の生活環境を守り整えるための意識の持ち方を指導している」と話す同会会長の藤沼弘文さん。「狩猟者の高齢化が進んでいるので、狩猟文化を若い世代に引き継いでいきたい」と意欲を見せていました。

花巻市猟友会の皆さん

［問い合わせ］
花巻市猟友会
会長　藤沼　弘文　さん
（☎26-3535）